



平成 19 年 9 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社トーセ
代表者名 代表取締役社長 齋藤 茂
(コード番号 4728 東証・大証第 1 部)
問合わせ先 経営企画部長 渡辺 康人
(TEL. 075-342-2525)

平成 19 年 8 月期通期業績予想の修正および特別損失発生に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 4 月 5 日に公表いたしました平成 19 年 8 月期（平成 18 年 9 月 1 日 ～ 平成 19 年 8 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 8 月期連結業績予想数値の修正（平成 18 年 9 月 1 日 ～ 平成 19 年 8 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,829	851	459
今 回 修 正 予 想 (B)	5,652	915	407
増 減 額 (B-A)	△178	65	△52
増 減 率 (%)	△3.1	7.6	△11.3
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 8 月期)	4,905	821	356

2. 平成 19 年 8 月期単体業績予想数値の修正（平成 18 年 9 月 1 日 ～ 平成 19 年 8 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,293	1,012	340
今 回 修 正 予 想 (B)	5,243	1,154	321
増 減 額 (B-A)	△50	142	△18
増 減 率 (%)	△0.9	14.0	△5.4
(ご参考) 前期実績 (平成 18 年 8 月期)	4,600	961	564

3. 修正の理由

平成19年4月5日の業績修正時に想定していた当期完了タイトルのうち、数タイトルが中止となり、開発売上は予想を下回るものの、これまでゲームを遊んでいなかった新しいユーザーの増加や従来のゲームの範疇に入らないジャンルのタイトルの市場浸透などにより、ニンテンドーDSをはじめとするゲームソフトの販売が好調であったことおよび運営サービス中の携帯電話向けコンテンツの利用者の状況も良好に推移したことから、ロイヤリティ売上は予想を大幅に上回りました。これらにより、売上高はほぼ前回予想数値通りになる見込みです。

また、前述の通りロイヤリティ売上が予想を上回る中で、ほとんどのロイヤリティ売上が売上原価を伴わないことから、経常利益は前回予想数値を大幅に上回る見込みです。

一方で、子会社の東星軟件（上海）有限公司では、前期より独自に開発を進めてきたオンラインゲームの研究開発費が先行的に発生したことに加え、運営サービスの開始が遅れたことにより売上の発生が遅れていることや、平成19年4月5日の業績修正時に国内でのジェスチャー認識技術に関わる商品の販売事業を整理したことに伴い、同社が保有する同商品の在庫を評価減したことから、出資金の実質価額が著しく低下することになりました。同社は短期的に業績回復による財務改善が見込みにくいことから、当社の単体業績における同社への出資金評価損1億5,000万円を特別損失として計上する見込みです。また、連結業績につきましては、前述のジェスチャー認識技術に関わる商品在庫の評価減による2,800万円と清算中の子会社ティーネットに関する整理損失の引当金繰入額2,200万円を特別損失として計上する見込みです。これらにより、当期純利益は前回予想数値を下回る見込みです。

※なお、本資料に記述されている予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、リスクおよび不確実性を包含しております。実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以 上